

横浜市立すすき野小学校 学校評価報告書 (平成 25 年度～平成 27 年度)

共通取組 重点取組	平成 2 5 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・重点研究で教員の授業力向上を図り、分かる・魅力ある授業にする。 ・学習タイムや宿題で、基礎基本の定着、読書タイムで言語力の向上を図る。	・重点研究では講師を招請し算数の指導法や評価方法を研究し、日々の授業の中で実践した。 ・読み聞かせや読書の推進等で読書好きを増やし、言語力向上に寄与した。	A ⓑ C D
2 豊かな 心	・異学年交流を推進し、相手のことを考えて行動できる子を育てる。 ・地域とのふれあい活動を通して、地域を愛する心を育てる。	・全校遠足や集会などで異学年交流を実施し、地域とも交流を図った。 ・心を育てることを意識しながらふれあい活動計画を立て豊かな心を育てる指導法や活動の場を更に検討する。	A ⓑ C D
3 健やかな 体	・朝の健康タイム「縄跳び」「長縄」「体操」「持久走」を年間通してしっかりと取り組ませる。 ・給食後に歯磨きを丁寧にさせる。	・どちらも長年の継続の力が大きく十分に指導し、取り組んだ。年間通して欠席児童が少なく、2月末の歯磨き検査では「A」9 0 %を達成した。	Ⓐ B C D
4 特別支援 教育	・個別の支援計画作成により、個に応じた指導の共有を図る。 ・取り出し授業で、個に応じた指導を提供する。	・特別な支援を必要とする子ども一人ひとりについて共通理解を図り、子どもの特性や状態に応じた指導を行った。 ・計画的に取り出し授業を実施できた。	Ⓐ B C D
5 児童生徒 指導	・月生活目標を学級で話し合い、掲示・振り返りで意識化を図り、生活習慣の徹底化を図る。 ・誰もが安心して豊かに生活できるようカウンセラーとも連携する。	・生活目標について学級で話し合い、振り返りを行うことで意識化を図ることができた。 ・学校の決まりを当たり前に日々の生活で守っていこうとする意識付けを繰り返し行っていく。	A ⓑ C D
6 地域連携	・行事・学習を通して、地域の様々な方と関わる機会をもち、地域連携を図る。 ・地域行事に参加し、相互の関係を築く。	・学校・保護者・地域が連携し、登下校指導を年間通して行うことができた。 ・行事・学習・幼保小中連携等で地域と関わりをもち、地域やそこに住む人々と親しむ機会を増やした。	A ⓑ C D
7 キャリア 教育	・行事・学習を通して、いろいろな方と交流し、様々な生き方にふれる機会を設ける。 ・行事・学習を通して、いろいろな係や仕事を体験させ、役割意識をもたせる。	・『横浜の時間』や生活科などの学習で地域と関わりをもち、地域の一員としての意識をより高めたい。 ・幼保小中連携から、成長段階を教師が的確にとらえ、子どもの人格形成に生かしていく。	A ⓑ C D
人材育成 組織運営	・重点研究、メンター研その他の研修等で、授業力等の力量向上を図る。 ・学年研ブロック研他の日常的な情報・意見交換でチーム力を高める。	・全員参加の重点研究や研修、メンター研修等で力量向上を図った。また、新しい研修も取り入れた。 ・学校の小規模化に伴い、昨年までの実績を継続できるように職員員の研修や話し合いを重ね、実績を維持した。	A ⓑ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・校舎内に健康タイム「縄跳び」「長縄」の歴代と今年の記録が掲示しており、日頃から子どもに意識化を図っていることに感心した。健康教育に力を入れ、様々な工夫を重ね努力していることがわかる。歯みがき指導には、他校養護教諭も影響を受け、指導に力を入れはじめた。開校以来の粘り強い健康教育指導が、他の面でも発揮されていることと思う。
学校関係者 評価結果	・「健やかな体」では健康教育に力を入れていて、年間通して欠席者が少ないということがわかった。歯磨き検査の結果がよいこともすばらしい。「特別支援」については、保護者に伝わりにくい内容なので、保護者評価が A ランクでなくても気にしないでよい。「地域連携」では、地域の行事に小学生がたくさん参加している。小学生が地域行事に参加することで、保護者も関心をもって参加してくれると期待するので、今後も学校で呼びかけてほしい。
評価結果に 対する 学校の見解	・学校で力を入れた健康教育については、小中一貫教育推進ブロックでも学校運営協議会でも高く評価された。欠席者が少ないこと、歯磨き「A」が9 0 %であったことなど、結果が目に見える部分があるからと思われる。地域連携については、大変関心が高く、今後も支援を約束してくださった。

学校経営 中期目標 達成状況	・急激に小規模校となった本年、様々な機会に教職員が児童の現状や教育活動に対して意見交流をする場をもてたことが結果としてチーム力の強化につながった。健康教育は長年の継続が結果として表れたと感じる。意欲の向上や豊かな心、人格形成から考えたキャリア教育等の取組は異学年交流、地域や幼保小中等の関わりを通して手立てを明確にできるよう、教職員間での意識の共有を図っていく。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成 2 6 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・重点研究で教員の授業力向上を図り、分かる・魅力ある授業にする。 ・学習タイムや宿題で、基礎基本の定着、読書タイムで言語力の向上を図る。	・重点研究では、図画工作科の研究研修を進めた。成果として、作品展では、たくさんの力作を展示した。 ・年 2 回の読書週間があり、充実していた。	A ⓑ C D
2 豊かな 心	・異学年交流を推進し、相手のことを考えて行動できる子を育てる。 ・地域とのふれあい活動を通して、地域を愛する心を育てる。	・地域行事への参加は各家庭の意識も大きくかわるが、子どもたちが、「地域の方に見守ってもらっている」という意識は育っている。 ・次年度、なかよし学年から全学年編成のたてわり活動に見直す。	A ⓑ C D
3 健やかな 体	・健康タイム、歯磨きを年間通してしっかりと取り組ませる。 ・あいさつリレーを実施し、健やかな心身を育てる。	・健康タイムによる体力の向上、あいさつリレーでの挨拶の喚起を行うことができた。めあてを持たせたり、意欲を持続させたりする工夫を見直す。	A ⓑ C D
4 特別支援 教育	・個別の支援計画作成や、取り出し授業、支援員との連携、ケース会議の設定等により、個に応じた指導の共有を図る。	・支援を必要とする子ども達の相談のできる職員関係ができている。 ・ケース会議が当事者だけの参加なので、話し合った内容を職員で共有する。	A ⓑ C D
5 児童生徒 指導	・「学校の決まり」配布・掲示で共通理解と生活習慣の徹底を図る。 ・月生活目標を学級で話し合い、掲示・振り返りで意識化を図り、生活習慣の徹底化を図る。	・月ごとの取組を話し合うことで、生活目標の意識が高まった。 ・職員の入れ替わりもあるので、学校のきまりに関して年度当初確実にの職員間での共通理解をする。	A ⓑ C D
6 地域連携	・行事・学習を通して、地域の様々な方と関わる機会をもち、地域連携を図る。 ・地域行事に参加し、相互の関係を築く。	・2の豊かな心とも関連するが、地域行事を紹介したり、参加を促したりすることで、地域への愛着意識を育てる。	A ⓑ C D
7 キャリア 教育	・行事・学習を通して、いろいろな方と交流し、様々な生き方にふれる機会を設ける。 ・行事・学習を通して、いろいろな係や仕事を体験させ、役割意識をもたせる。	・総合的な学習の時間の内容がクラスごとに毎年変わるので教職員の共通確認をしながら、キャリア教育、福祉教育の連続的系統的な指導計画の見直しを図る。	A ⓑ C D
人材育成 組織運営	・重点研究、メンター研その他の研修等で、授業力等の力量向上を図る。 ・学年研ブロック研他の日常的な情報・意見交換でチーム力を高める。	・児童数減、学級数減、職員数減という状況の中で、どのように人材育成を行っていくか見直す必要がある。 ・単級であっても、少数担当をつけるなど、「共通の話題」として悩みを話せる体制を次年度も作っていく。	A ⓑ C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	・健康タイムの設定、あいさつリレーなどの具体的な取組などが、児童の育成に効果的であった。また、保護者の評価にもつながっている。キャリア教育として「生きる力」を育むための充実した活動が進められたことも評価できる。教職員の意識の高さ、連携がすばらしいと思う。
学校関係者 評価結果	・今年度も健康教育に力を入れ、充実した活動ができている。歯磨き検査の結果も今年度も素晴らしい。図画工作科で自己表現力を育てていこうという取組がよい。作品展や、廊下の掲示物の作品がとても明るく充実していた。また書き初め展も地域に開放されておりよかった。小規模化し、コンパクトな学校になってきてはいるが、その分、教職員と児童、児童相互、学校と地域のまとまりがありよい。
評価結果に 対する 学校の見解	・重点をおいた健康教育が今年度も高く評価された。しかし、児童の意識としては、やや意欲の低下が感じられるので、次年度のめあてや意欲のめあて方に改善をしていきたい。キャリア教育についても保護者から高く評価していただいた。次年度もより教職員間での意識を共有し、充実した活動を行っていきたい。

学校経営 中期目標 達成状況	・今年度も少ない教職員ではあるが、互いの仕事を意識して、フォローし合いながら、それぞれの教育活動を行ってきた。また、今年度より幼保小連携の推進地区として、すすき野保育園、さくら幼稚園との交流を見直しながらも、より充実した交流となるよう計画、実践した。次年度のキャリア教育に生かしていきたい。児童指導や福祉教育等、教職員の共通理解をより高めて指導に向かいたい。
----------------------	---

共通取組 重点取組	平成 2 7 年度		
	具体的取組	自己評価結果	総括
1 確かな 学力	・図画工作の重点研究を深め、授業力向上を図り、魅力ある授業にする。 ・学習タイムや宿題、読書タイムの取組を継続して行い、言語力や学力向上を図る。		A B C D
2 豊かな 心	・全学年のたてわり活動を通して、相手のことを考えて行動できる子を育てる。 ・地域とのふれあい活動や、人権教育を充実させ、豊かな心の育成をめざす。		A B C D
3 健やかな 体	・健康タイム、歯磨きを年間通してしっかりとめあてをもたせ、意欲を持続させながら取り組ませる。 ・あいさつリレーを実施し、健やかな心身を育てる。		A B C D
4 特別支援 教育	・個別の支援計画作成やケース会議の設定等により、個に応じた指導の共有を図る。学校便り等で保護者にも伝わるようにする。		A B C D
5 児童生徒 指導	・「学校の決まり」配布・掲示で共通理解と生活習慣の徹底を図る。 ・生活目標について、クラスで取組を決めたり、振り返りをしたりして、意識して生活できるようにする。		A B C D
6 地域連携	・行事・学習を通して、地域の様々な方と関わる機会をもち、地域連携を図る。 ・地域行事に参加し、相互の関係を築く。		A B C D
7 キャリア 教育	・行事・学習を通して、いろいろな方と交流し、様々な生き方にふれる機会を設ける。 ・幼保小の交流や体験学習、福祉教育などを通して、生きる力を育てる。		A B C D
人材育成 組織運営	・重点研究、メンター研その他の研修等で、授業力等の力量向上を図る。 ・学年研ブロック研他の日常的な情報・意見交換でチーム力を高める。		A B C D

小中一貫 教育推進 ブロック内 相互評価 結果	
学校関係者 評価結果	
評価結果に 対する 学校の見解	

学校経営 中期目標 達成状況	
----------------------	--